

北見工業大学

短期交流研修報告書

Kitami Institute of Technology

Study Tour Report



第5回国際大学生雪像彫刻大会

中国・ハルビン工程大学

2013年1月3日～1月7日



大森竜太

機械工学専攻一年

今回中国での雪像づくりを終えて、出発前から帰国までを通して全体的に過酷なものでしたが、すごくいい経験をすることができました。出発前では、ハルビンという街の気温は -30°C 近くあると聞いていたので、何を揃えていいのかわかりませんでした。しかし、経験者に話を聞くことができたのである程度の想像はその時点でできました。

目的地である中国のハルビン空港につくと、私たちのガイドをしてくれる女子大学生が迎えに来てくれました。さらにロシアのチームの人達とも一緒でした。学生寮に向かう車内では、ロシア語、日本語、英語、中国語が飛交っていてすごく新鮮でした。やはりこういった場で、自分の英語力が問われるのだと思いました。

寮に着いて部屋に案内されると驚かされることばかりでした。なぜかという、お風呂場の床や壁が泥だらけであり、清潔さが全くありませんでした。しかし、二日目で私たちはそれに慣れてしまいました。

三日目からは本格的に雪像づくりが始まりました。しかし雪像づくり初日は $3\text{m}\times 3\text{m}\times 3\text{m}$ の大きさのものを3分の1削るので終了しました。夜はガイドの学生とチームでご飯を食べにいきました。中国の料理には不安があったのですが、おいしい物もたくさんありました。その次の日からも作業は朝8時から始まりました。 -30°C 近い中、疲れもなかなか取れず作業をしていたので何度も心が折れそうになりました。しかし、ガイドの学生がしょうが湯を持ってきて、チーム内を励ましてくれたので頑張ることができました。

さらに中国のガイドの学生とは英語での会話だったので、いい勉強になりました。日々重ねることで、チーム内の作業効率もよくなり、ガイドの学生とも親しくなりました。夜には学生が経営しているバーで一日を振り返り、中国の学生と色々な話をすることができました。雪像づくりも終盤を迎えた頃、多くの人々が雪像を見にきていました。私が驚いたのは、「今私は日本語を勉強しています」、「日本が大好きです」と言ってくれる人も何人かいました。中国に行く前には周りの人には危ないから気をつけてと言われましたが、それはニュースなどでそういったイメージがついてしまったからだと思います。実際には街の人々は心暖かい人も多かったので、

私のイメージは大きく変わりました。

今回雪像づくりに参加した結果、過去最高の成績も挙げる
ことができ、多くの外国人留学生との交流もありいい経験に
なったと思います。さらに厳しい環境での生活を経験し、忍
耐力もついたと思います。またぜひ参加したいです。



及川亨

機械工学専攻一年

冬休みに中国のハルビン工程大学で行われた国際大学生雪像大会に参加しました。ハルビンに到着した初日は、汚い部屋と臭いシャワーに衝撃を受け、「帰りたい」と何度も叫びました。しかし、そのような生活環境でも住めば都というもので、すぐに慣れることができ、中国での生活を楽しく送ることができました。

ハルビンは北見よりも寒く、まつ毛が凍った体験は初めてでした。そのような極寒の中で雪像制作に励みました。巨大な雪の塊と対峙したときにはどこから手を付けて良いのか戸惑いましたが、チームの皆で協力して作業の前半は大胆に、後半は慎重に雪を削り落とし、最終的には自分達が思っていた以上に良い仕上がりの雪像が完成しました。また、小熊が鮭を加えたキャッチーなデザインが功を奏したのか3位に入賞することができました。基本的にパワー作業だったので日に日に増す疲労、筋肉痛と格闘しながら皆で作業をしたのが良い思い出です。毎晩疲れた体にビールが染みわたりました。また、作業をしていると通りがかりの人が声をかけてくれ、言葉は通じなくとも人の温かさに励まされました。

日常生活で面白かった体験はバスに乗り、中国人の乗車マナーや交通マナーを体感したことです。客が乗り込んでいる途中で走り出すバスや、車内で大音量で音楽を流している人など、日本では有り得ない光景を目の当たりにして驚きました。中国では歩行者優先という概念は皆無で、横断歩道を渡るときの緊張感には日本では味わえないものでした。

また、毎日一緒に行動した向こうの学生との会話は基本的に英語でしたが、私の英語力不足でコミュニケーションを上手く取ることができなかつたために悔しい思いをしたこともあり、改めて英語の必要性を痛感し、自己啓発にもなった旅行でした。

国外を経験したからこそ改めて日本の良い部分に気付くこともあり、日本に帰ってきてサービスの質の高さと交通マナーの良さに感心しました。特に日本の空港の安心感は格別でした。

この旅行を通じて、私が今まで抱いていた中国のイメージが大きく変化し、中国を少しだけ好きになれたことが一番の収穫だと感じています。

2008年12月27日から毎年の年始の間にハルビン工程大学で国際大学生雪像大会が開催されて今年でもう第5回目になった。ハルビン氷祭りは世界三大氷祭りの一つに数えられるイベント。北海道の札幌でハルビン氷祭りと同じレベルの氷祭りが毎年冬に行われている。

今回、私と白鳥さん、大森さん、及川さんは北見工大の代表として第5回国際大学生雪像彫刻大会に参加して嬉しかった。雪像大会が終わったけれど私たちが雪像を作る場面とハルビンの美しい景色はまだ私の頭の中に残っている。ハルビンで一番の印象は寒いことだ。私たちがハルビンに着いた一日目の夜、気温が零下38度になった。昼間で気温が零下20度になっている。太陽が沈むと急に冷え込む、零下30度ぐらいになる。ハルビンの寒さと北見の寒さが全然違う、ハルビンの湿度が高いから北見よりもっと寒いと感じた。

雪像大会の期間中には多くの美味しい中華料理を食べたり、きれいな景色と雪像大会の作品を見たりして楽しかった。また、ハルビンに着いて三日目、「冰雪大世界」という観光地に遊びに行った。「冰雪大世界」に入った直後の印象はとにかく派手で、広い。そこの中にはさすが氷と雪の世界と言うだけあって、イルミネーションの組み込まれた巨大な建築物がたくさんあり、眩しいくらいの光を放っていた。冰雪の遊園地としてのエンターテイメントが集められている。立派な滑り台も置いてあるので私達は滑り台を数回に滑った。

ハルビンに行く前、大学で小さい雪像を試作したので最初、簡単に作品を完成できると思っていたが、実際の雪質は氷と同じ硬さなので作業にかなりの力がかかった。作業中、ハルビン工程大学4年生の二人のボランティアは私たちの周りにいてお湯を持って来たり、手伝ってもらったり楽しく過ごした。

雪像の三日間で、雪像を見に来るハルビンの住民から私達の雪像に対していろいろな意見とかわいい評価の声が出て、最終日に4人の力でやっと北海道の代表的な「小熊」という名物を完成した。最後の発表会で三等賞を取得して喜んだ。今回の経験は私の人生の記憶に残っている。もし来年チャンスがあればまた雪像大会に参加したいと思う。



呉東元

機械工学科三年



白鳥善裕

研究協力課主任(国際交流担当)

1月4日から1月7日まで本学の国際交流協定締結校であるハルビン工程大学(中国)で開催された第5回国際大学生雪像彫刻大会に学生3名、引率者1名で参加しました。この大会に本学は第1回大会から第3回大会まで参加していましたが、昨年度は参加していないため、今回で4回目の参加になります。

大会が開催された中国のハルビン市は、中国で最も北部に位置する黒竜江省の州都です。一年間で最も寒い1月の平均気温はマイナス19.3度と中国の東北地方でも特に冷え込みが厳しい地域です。地元の方のお話では、今年の冬は特に冷え込みが厳しく、大会期間中も毎日マイナス30度の日が続きました。

今大会には、タイ、マレーシア、ロシア、アメリカ、イギリス、北朝鮮、台湾の大学や中国各地の大学から53校が参加していました。

今回の私達の雪像テーマは「小熊」です。鮭を銜えた木彫りの熊をイメージしたデザインにしました。雪像は3m×3m×3.5mの直方体の雪を大きなノミやヤスリで削り出していきます。デザインが横長なため、初日は上部の雪を切り崩して半日の作業が終了しました。

大会期間中には、大会主催者が外国からのチームを対象にハルビン冰雪祭りへ招待してくれました。ハルビン冰雪祭りは世界的にもとても有名なハルビンの寒さを象徴する冬のお祭りです。ハルビンへの観光客は1月が最も多く、そのほとんどがこのお祭りを見に来ているそうです。会場に到着すると、大規模な氷の建造物が建物内部からカラフルなライトで照らされ、とても幻想的な世界でした。ただ、そこはマイナス30度。歩き回り、踊り、体を温めながら会場を見学しました。

雪像作りは予定通り順調に進みました。しかし、真冬の屋外での作業はとても厳しく、朝靴下に付けたホッカイロが切れる午後4時頃には足が冷たく、耐えられなくなり作業を終了する毎日でした。しかし、私達よりもデザインが複雑な雪像を作るチームは時間が足りないため、投光器をつけながら午後10時過ぎまで作業を続けていました。その情熱に感心するとともに、体は大丈夫なのか?と心配になってきました。

最終日、私達の作品は完成しました。練習よりもはるかに素晴らしい雪像が出来上がり、皆満足でした。他校の雪像も完成

していたので、見学に行くと、学生が作ったものとは思えないくらい素晴らしい作品がたくさん出来上がっていました。大学関係者の方に聞くと、大会のレベルが年々上昇しているとのことでした。

閉幕式が始まり、様々な賞の受賞校が呼ばれましたが、私達はなかなか呼ばれませんでした。他のチームから比べると、私達の作品はシンプルだったので受賞は難しいと思っていました。しかし、驚いたことに、その後の発表で3等賞を受賞し、全員で壇上に上がり、トロフィーと賞状を受け取りました。努力が報われたことに感激し、私達の中で最高の結果になりました。

今回は、私達のチームを大会期間中ずっとサポートしてくれたボランティアの中国人学生にも大変恵まれました。二人のボランティア学生は本当に親切で、私達は彼らに甘えてばかりでした。今回、一緒に参加してくれた日本人学生は、ボランティア学生との触れあいを通じて、異文化理解について学んできたと思います。また、ボランティア学生の二人も日本のことを少しは理解してくれたのではないのでしょうか。日中両国の学生にとって、今回の経験が今後の成長の糧になることを期待します。



登録



学生新聞の取材



繁華街



有名なアイスクリーム



お祭り会場



食堂で夕食



喫茶店でボランティア学生と会話



開幕式



道具



踏み台



作業中（及川）



食堂で昼食



ハルビン冰雪祭り①



ハルビン冰雪祭り②



ハルビン冰雪祭り③



ハルビン冰雪祭り④



作業2日目の朝



休憩中



食堂で昼食



作業中（及川と大森）



作業中（大森）



作業中（呉）



学生食堂で朝食



作業3日目の朝



完成①



完成②



完成③



完成④



全員で記念写真



タイの大学の作品



中国の大学の作品



留学生宿舎



寝室



トイレとシャワー室



閉幕式



3等賞受賞壇上へ



空港で別れ

短期交流研修日程

日 程: 2012年1月1日(火)~1月9日(水)
 場 所: 哈爾濱工程大学
 用 務: 国際大学生雪像彫刻大会
 出張者: 研究協力課主任 白鳥 善裕
 機械工学専攻1年 及川 亨
 同上 大森 竜太
 機械工学科3年 呉 東元(中国人留学生)

日 付	用 務	備 考
1月1日(火)	女満別空港発 13:45 ADO52 羽田空港着 15:40 【ホテルJALシティ羽田東京 宿泊】	大森さんは東京で合流
1月2日(水)	羽田空港発 8:30 CA184 北京空港着 11:30 北京空港発 16:35 CA1611 哈爾濱空港着 18:35 【哈爾濱工程大学宿泊施設 宿泊】	哈爾濱工程大学まで大学関係者が送迎
1月3日(木)	登録日 【哈爾濱工程大学宿泊施設 宿泊】	
1月4日(金) ~ 1月7日(月)	終日 雪像コンテスト 【哈爾濱工程大学宿泊施設 宿泊】	
1月8日(火)	哈爾濱空港発 12:30 CA1644 北京空港着 14:20 北京空港発 17:25 CA183 羽田空港着 21:35 【ホテルJALシティ羽田東京 宿泊】	哈爾濱空港まで大学関係者が送迎
1月9日(水)	羽田空港発 11:35 ADO51 女満別空港着 13:15	



北見工業大学 国際交流センター
〒090-8507 北見市公園町 165 番地
Tel : (0157)26-9370 Fax : (0157)26-9373
Email : kenkyu05@desk.kitami-it.ac.jp